

平成25年度前期授業公開報告 その1 — 造形表現学科 —

FD委員 中村精二(造形表現学科)

授業公開の概要

造形表現学科のカリキュラムは実技中心で殆どが選択科目で構成されています。このため、従来から授業や講評会などに比較的自由に出入りして情報を共有するという伝統があります。

今回、学科の特長を生かした授業公開の方法を考えよとの機会に際して、本学科ではこれまでの伝統をより発展させ、全科目を対象にし、見学者も教員に限らず助手、学生まで含めるようにしました。

概要は以下の通りです。

[公開科目]

本学科の専任教員、非常勤教員が担当する全科
(授業内容によって非公開も可)

[見学対象]

専任教員、非常勤教員、助手、大学院生、在学生

[見学科目]

教員、助手は3科目以上

[見学期間]

全学と同様の2週間

[周知方法]

常勤・助手には書類配布。非常勤の先生には依頼状、
学生には掲示と告示

授業公開の結果

(1) 結果の概要(院生、学生を除く)

[参加人員]

専任教員 10/12 非常勤講師 1/28 (前期) 助教・
期限付助教 3/3 任期付助手 7/8 教学助手 2/12
学科全体 24/63名

[見学授業数(延べ)]

専任教員 88 非常勤講師 5 助教・期限付助教 30
任期付助手 38 教学助手 8
学科全体 139回

[見学授業数(平均)]

専任教員 8.8 非常勤講師 5
助教・期限付助教 12.7 教学助手 4
学科全体 5.8回(実見学者1人当たり)
2.2回(在籍1人当たり)
最大 42回(科目)

[科目見学数]

6人2 5人4 4人14 3人14 2人15
1人14 0人17
平均 1.0人 見学科目数 62/79 (78.5%)

[コメント](自由記述)

「自分が担当している学生の他の授業での様子を知ることが出来た。」
「上級学年での成長ぶりがわかった。」
「学生が楽しく学んでいる様子が良くわかった。」
「どの科目でも授業について行けない学生の問題があることが分かった。」
「授業内容が昔と変わっていて興味深い。」
「普段余り見ることの出来ない授業の内容を知ることができた。」
「実習基礎の内容について相互の連絡が必要と感じた。」
「基礎科目について、共通性の理解に基づいた専門性の積み上げの必要性。」
「オムニバス形式の授業では、他の教員の時間の授業見学が必要。」
「授業見学の学生が上級生の受講生に質問し、交流が見られた。」

(2) 結果のまとめ

- ・参加人員については、常勤のスタッフの参加率が高く、教員・助教・助手については23人中20名が参加し87%の高い参加率を得た。これに対し、非常勤講師・教学助手は7.5%と参加率が低かった。これは、授業公開参加の周知が徹底されていなかったこと、時間的な制約から、授業見学が出来ないこと等の理由が考えられる。次回からは、空き時間や休み時間を利用した短時間の参加を検討したい。また、統計外として大学院生1名の見学及び、10数名の学生が見学した授業が見られた。他学科の教員の参加は見られなかった。
- ・見学授業数については、基本的に全科目を公開したことで見学科目数が圧倒的に多く78.5%と約8割に達した。1人当たり見学数の目標は3回以上としたため全体平均では2.2科目であったが、実見学者の平均は5.8科目と2倍程度まで及んでいる。特別な例として42回の見学例が見られた。
- ・1科目の見学者数については、延べ79科目と多くの科目を公開した為参加者の分散が考えられたが、1～2名が36.3%、3～4名が35%、5～6名が10%であった。見学者0名の科目が17科目で21.3%であったが、複数回の開講科目や土曜日等参加しにくい時間帯の科目であった。
- ・コメントについては、全体の感想を自由記入欄にメモする形式であったが、多くの建設的な意見が寄せられた。その多くは学生の姿についてであり、普段自分の授業でしか見ることの出来ない学生や、過去に教えた学生がどのようにして学んでいるかということである。また、普段見ることの出来ない他の分野や、非常勤教員の授業などを知ることが出来て良かったとのことが上げられた。

授業公開の成果

成果は大体次の項目にまとめられます。

- ① 普段公開されにくい科目を含めた全科目の見学により、多くの参加者が多くの科目を見学することで、授業の内容と状況が具体的に把握できたこと。特に非常勤の教員の担当科目について成果があった。
- ② 全科目を縦断した見学により、カリキュラム全体の授業を立体的に把握することができた。
- ③ 助手、学生を含め全員が参加することで、各自の意欲が高まった。

様々な分野を総合的に学びながら、独自の表現を目指している本学科に於いては、各科目は独立すると同時に相互に関連して機能しています。全科目が公開されていると、短期間に多くの科目を集中的に見学することが出来ます。そのことにより、同じ学生が色々な場所で様々な科目を履修しながら、生き生きと学んでいる様子に出会うことができました。

学生の参加については、当初授業に混乱を来すのではないかと危惧もありましたが、実際には自分の授業を受講しているため、さほど多くの参加は見られませんでした。しかし、特定の人気科目にはかなり多くの下級生が参加し、上級生の授業をあこがれの眼差しで見学し質問をしている様子が印象的でした。

今回の授業公開は、それぞれの授業の内容について理解を深めるということに加えて、学科カリキュラムの全体像を各自がより具体的に理解を深めたという点に成果があったと考えます。そのため、次の段階としてはより具体的なカリキュラムや課題内容の調整を図ることが可能になると考えられます。また、次の授業公開に際しては、非常勤講師の先生にも積極的な授業見学をお願いするため、短時間でも多くの科目を見学できる仕組みを考えたいと思います。

編集後記

平成25年度の授業公開は、公開テーマと公開授業の決定を学科・科にお願いしました。お任せすることで、学科・科の事情や必要性に応じてそれぞれの独自性を発揮してもらえらるうと考えてのことです。実際、他の学科・科にも参考にしていただけたそういくつかの

興味深い事例がFD委員会で報告されました。それらを全学で共有いたしたく、今号と次号の2回にわたり、FD News Letterでご紹介します。今回は、造形表現学科からの報告です。